



●コロナ禍における コミュニティ活動

大正小地区コミュニティ委員会は、36の団体が所属しており、大正小学校と協力し、地域の核となるよう広く根を張った地域活動をしておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎年恒例の『春の文学歴史散歩』を中止し、3月の定例会を入谷区民館で行って以来、会合を開くことは行っておりません。

また、5月の総会は書面で議決し、例年9月に行っている多くの方々とゲームを通して楽しく交流を深められるコミュニティ祭りも中止にいたしました。

新型コロナウイルス感染を防ぐ『新しい日常』のもと、コミュニティ活動をするのはとても難しいことだと思います。ソーシャルディスタンスを維持しながら、「明るく豊かなふれあいというおいのあるまちづくり」が主旨のコミュニティ活動を両立するのは、非常に困難です。

8月の時点でまだ活動拠点となる小学校の施設は開放されておらず、コミュニティ活動は再開できておりませんが、数ヶ月後、数年後には新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の準備期間を経て必ず再開されるはず。国の指針、都の要請、区のガイドラインなどが発表され、それらを守って活動することになるでしょう。

しかしながら、「ガイドラインを守っているから」とか「これだけやれば感染しても言い訳できる」とか、そんな気持ちで活動するのは危険だと思います。感染しないため、また感染を拡大させないために、「区のガイドラインではこうだが、我々のサークルでは更に対策を行う」などの「絶対に感染しない、感染を広げない」という強い意志が必要。それにはサークルの代表者の強い責任感を持った意志・行動・リーダーシップが必要になると思います。

現在、区のガイドラインでは『咳エチケットの徹底、マスク着用及びマイタオルを持参する事』と、利用者に求める感染拡大防止のための措置として挙げられておりますが、今後、『スポーツ時には熱中症を避けるためにマスクはしなくてよい』となるかも知れません。そうした際には、サークル内よく話し合い、人と人との距離を考え、必要であればマスク着用を必須にし、

休憩時間を増やし、手で触れる物には消毒をこまめにするなど、個々で決まり事を作る必要があると思います。サークルの代表者には強いリーダーシップを発揮してもらいたいと思います。日中には児童や教職員が使う学校に我々施設利用者が絶対に新型コロナウイルスを持ち込んではいけません。多くの方々に迷惑をかけることになりません。

お年寄りや基礎疾患をお持ちの方やその同居者の方々と、若者としては、新型コロナウイルスに対する警戒心になり差があると、個人的には感じます。是非慎重な行動をお願いしたいと思います。

運営委員長 丸地 伝三



昨年度の
コミュニティ祭り



多くの子供たちが
楽しんでくれました



昨年度の
文学歴史散歩



金曾木小地区コミュニティ委員会は、今年で創立117年目を迎えた根岸四丁目にある金曾木小学校を拠点として活動しています。平成28年度で創設30周年を迎え、徳茂会長を中心として、11名の運営委員が実務を支え、16のサークルの皆様とともに、当委員会としての行事を開催・運営しています。

4月の総会から始まり、コミュニティ祭り、バスハイク、新年会、草津温泉&スキーツアーと老若男女に楽しんで頂ける行事を開催しています。コミュニティ祭りは、金曾木小PTAバザーと共催して行っています。委員会独自のイベントを企画し、大勢の来場者を楽しんでもらっています。バスハイクは、関東近県の観光スポットや名所めぐり、バーベキューなど、開催の度に内容を変えて行っており、未就学児からご年配の方まで、様々な世代の方々の参加を頂いています。草津温泉&スキーツアーでは、現地で温泉派とスキー派に分かれて活動し、それぞれの楽しみ方で過ごします。



平成30年度の草津温泉&スキーツアー

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々なイベントが中止を余儀なくされましたが、委員会活動も例外ではありません。

新しいスタイルでの活動を実践し、皆様の笑顔とともに活動が再開できるよう、区内各地区のコミュニティ委員会と知恵を出し合いながら前へ進んで行きたいと考えています。これまで委員会活動に携わる機会がなかった皆様にも、新たな委員会活動の創造に参加して頂けたらと思います。

運営委員長 後閑 正典



令和元年度のコミュニティ祭り 大勢の参加者が楽しんでくれました。

